

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 四日市幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	丈夫な体の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○園内や園外で自然に親しむ機会をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培活動を計画的に進めることができた。コロナ禍で休園中の時は収穫した野菜を家庭に届けたり、鉢物は家庭で栽培活動を継続してもらったりした。親子で野菜や花に関心を持ち取り組むことができた。</li> <li>・雑草園など園内に虫が来る環境をつくった。アゲハやテントウムシの幼虫を育てるなど身近な生き物への興味関心が広がった。</li> </ul> <p>○戸外遊び、運動遊びを充実させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巧技台やトンネルなど様々な遊具を使い、楽しみながら体を動かす機会が持てるよう環境設定した。体を使って遊ぶことが好きになり、戸外でも様々な活動に取り組む、心や体を十分に動かす心地よさを味わうことができた。</li> </ul> <p>○食べ物への興味、関心を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培活動や食育活動に取り組むことで、食べ物に関心を持った。友だちと一緒に食べる楽しさを味わい、苦手な物も食べてみようとする意欲を育てることができた。</li> </ul> <p>□アンケートから「自然の変化に気づくようになりましたか」の項目について85%の保護者から「そう思う」と高い評価を得た。さらに興味関心が深まるよう環境設定をしていく。「体力がついたと思いますか」の項目では90%「体を動かして遊ぶことが好きになりましたか」の項目では85%の保護者から「そう思う」と評価を得た。引き続き発達に応じた環境づくりを研究していく。</p>	
重点目標 2	人とかかわる力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○コミュニケーション能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びや生活の中で、自分の気持ちを言葉で伝える経験を重ねてきた。しかしトラブルを避け自分の気持ちを出さず、大人や友だちの意見に合わせる幼児の姿がある。</li> <li>・地域の方との交流は機会は少なくなったが持つことができた。地域の方に親しみや感謝の気持ちを持つことが出来た。</li> </ul> <p>○道徳性や規範意識の芽生えを培う活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢の交流は日々の生活の中で自然にかかわる姿がみられた。あこがれの気持ちを持ったり、相手のことを気に掛けたりしながら、つながりが深まった。運動会後はリレーやドッジボールなど遊びを伝える姿があり、一緒に遊ぶ中で、楽しく遊ぶためにルールがあることに気づき、ルールを守ろうとする気持ちにつながった。</li> </ul> <p>□アンケートから「人の話を聴こうとしますか」「自分から日常のあいさつができるようになりましたか」の項目について保護者の評価はやや低かった。自分の思いを大事にすることや人の話を聴く姿勢や態度、あいさつが身についていくよう継続的に取り組んでいく。</p>	

重点目標 3	子育て支援の充実 地域・家庭との協働	4
主な方策 成果と課題	<p>○基本的な生活習慣の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「早ね・早起き・朝ごはん・朝うんち」のアンケートをもとに保護者と懇談し、生活習慣の定着にむけ取り組んできた。</li> </ul> <p>○保護者との連携の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園や家庭での様子を共有したり、子育ての悩みを聞いたりした。保護者の思いに寄り添い、保護者の方も幼稚園が楽しいと思えるように努めることができた。</li> <li>・コロナ禍の中での園活動について、PTA役員をはじめ保護者の理解と協力を得ながら活動を充実させることができた。</li> <li>・地域の学校関係者、民生児童委員、主任児童委員、園づくり委員長の方などとともに進めることができた。</li> </ul> <p>□アンケートから「あなたは園の教育内容に満足していますか」という項目について「そう思う」と95%の保護者からの高い評価を得た。今後も保護者の信頼関係を大切にし教育の充実に努めたい。</p>	

重点目標 4	教師の役割 教育活動の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>○心が動く遊びの充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究を積極的に行い、コロナ禍の中でもできる活動を充実させた。特に、生き物とのふれあいや砂、泡、水などの感触、季節感を味わえるようにしてきた。幼児が友だちと一緒に意欲的に取り組む姿につながった。</li> </ul> <p>○一人一人に合わせた指導のあり方を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践を検討する中で、幼児理解や指導のあり方が明確になった。</li> <li>・日々の生活の中で一緒にいたい友だちができ、相手の思いを気かけたり、かかわりあったりする姿がみられるようになった。</li> </ul> <p>□アンケートから「遊びの種類や生活体験が増えましたか」の項目では100%の保護者から「そう思う」という高い評価を得た。引き続き豊かな体験活動を工夫していきたい。そして、今後も一人一人のよさや可能性を把握し、指導の改善に生かせるように意識していく。</p>	

## 2 改善方針

重点目標 1	・食育では楽しんで食べることを大事にし保護者とともに進めていく。
重点目標 2	・地域の人材を活かした交流活動を持ち、様々な人との出会いを継続、発展させる。
重点目標 3	・ホームページなど情報の発信の仕方を工夫していく。保護者に説明会でビジョンをわかりやすく説明していく。
重点目標 4	・保護者や教職員間の連携やコミュニケーションを大切にしながら教育活動を進めていく。

【様式1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 橋北こども 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	コミュニケーション力のある幼児の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉、表情や動きから、相手の思いに気付いたり、自分の思いを伝えたりできるよう取り組んできた。遊びの中で、友だち同士で思いを出し合ったり、相手の思いに気付いたりする姿がみられるようになった。</li> <li>・クラスで話し合いの場を設け、一緒に考えることを意識してきた。また、当番活動の中でも発表する機会をつくった。少しずつ相手に言葉で伝えようとする姿がみられてきた。</li> <li>・登園時や来客者が来た際に、すすんであいさつができない姿がみられた。まずは大人から挨拶をすることで、恥ずかしがる幼児もあいさつをする姿がみられるようになった。</li> </ul>	
重点目標 2	幼児の姿・発達にあった教育・保育の工夫	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、前年度より外へ出て体を動かす機会は少なかったが、多目的ホールにサーキット遊びができるように設定したり、さくらんぼリズム等の体操をしたりしながら、いろいろな動きを取り入れてきた。</li> <li>・科学性の芽生えを育てたり、数や文字などに興味をもったりできるよう、環境を整えてきたことで、子どもたちの興味・関心が広がり、主体的に遊ぶ姿がみられた。</li> <li>・園内研修では、保育の一場面を写真に撮り、子どもたちが何を楽しんでいるのか、学んでいるのかについて、話し合うことができた。様々な視点から子どもたちの遊びを見つめ、次の保育に生かすきっかけになった。</li> </ul>	
重点目標 3	小中学校、地域との交流の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は地域との交流ができなかったが、地域の方の存在を子どもたちに知らせたり、プレゼントや手紙を書いて気持ちを伝えるなど、離れていてもつながりが持てるよう進めてきた。</li> <li>・年長児は就学に向けての期待やイメージが持てるよう、絵本などを読んで伝えてきた。1年生からプレゼントをもらい、自分たちの入学を小学校も楽しみに待ってもらっていることを知ることができた。</li> <li>・小中学校との学びの一体化の中で話題になる「あいさつ」「体づくり」にねらいを絞って、保育の中で取り入れるようにしてきた。引き続き取り組んでいきたい。</li> </ul>	
重点目標 4	子育て支援活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードで子どもたちの遊びや活動を写真も一緒に掲示して知らせてきた。</li> <li>・登降園時には保護者とともに、色々な話をしながら子どもの成長を見ていく関係を築いてきた。</li> <li>・子育て支援センターでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で利用者に検温・手指消毒をお願いしたり、人数制限をしながらの開催であった。利用者が安心して来れる場となっている。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・前年度より園外へ出ることが少なかったので、保育の中で体を動かす遊びや体操をもっと工夫するとよかった。来年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止に気をつけながら、園外活動を工夫したり、日々の生活や遊びの中で、交通安全などの経験ができるようにしていきたい。
- ・園庭では、固定遊具や砂遊び、縄跳び、グラウンドでは鬼ごっこやドッジボールなど思い切り体を動かす遊びをした。今後も、園庭とグラウンドを併用しながら遊びの充実を図っていきたい。
- ・アンケート等で挨拶ができないという割合が多くみられた。子どもたちにあいさつの大切さを知らせつつ、大人が手本となって進めていけるようにしていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 富田幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	健康な体づくりの推進	4
主な方策 成果と課題	<p>○短時間の園外保育や戸外での縄跳び・跳び箱・畳のぼりなど道具を使って体を動かしたり、鬼ごっこ、ドッジボールなどルールのある遊びで走る・しゃがむ・跳ぶなどの粗大運動を取り入れた。靴の着脱や階段の昇り降りもスムーズになり、戸外での遊びに積極的・継続的に楽しむ姿が増えた。</p> <p>○手洗い、うがい、食事、睡眠など基本的な生活習慣の定着について継続的に行ったことで病欠の欠席者が少なく、健康に過ごせるようになった。</p> <p>○子どもの生活状況調査からビデオ・ゲームの使用時間が市全体と比べると長く、絵本に親しむ時間が短い傾向にあった。便りや生活チェック表などを活用し継続的に啓発したことで視聴時間が減り、少し絵本に親しむ時間が増えた。</p> <p>◇食育活動については、栽培、収穫などの体験を継続しながら、食への興味・関心を広げていく。また、弁当や給食を通じて様々な味や調理の仕方を知り、食に親しむ機会にしていく。</p>	
重点目標2	地域・保護者との連携を図り、地域に開かれた園づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>○富田の鯨船を活用し運動会を開催したり、昨年度の納涼祭の経験を活かし子どもたちで手作りの夏祭りを楽しむ機会を設けたり、地域の方に手紙やプレゼントを贈ったりなど実現可能な方法を工夫をし、つながりを継続してきた。地域を意識した遊びを取り入れてきたことで、地域に親しみを持つ機会となった。</p> <p>○保護者との連携を続けていくために、日々の子どもの姿や活動の内容などをその日のうちに写真や文書で伝えるようにした。写真の掲示を見ながら親子の会話の場や保護者と子どもの成長を喜び合う機会になった。</p> <p>◇地域・保護者と連携しながら安心して育ていけるような活動を工夫していく</p>	
重点目標3	ふれあい支えあい共に輝く子どもの育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○友だちと遊びを通して様々な実体験を重ねる中で、自分の意見と同じであったり違いに気づくことができた。</p> <p>○混合クラスであることを活かし4.5歳児と一緒に活動する中で、異年齢で声をかけたり、遊びに誘ったりと自然なかかわりが持てた。</p> <p>○園内研修を定期的にするすることで、子どもの姿をさまざまな視点から捉え、自分の保育を振り返り生かすことができた。</p> <p>◇様々な研修を積極的に取り入れ視野をひろげ、子どもたちの園生活が豊かになるようにしていく。</p>	

## 2 改善方針

- 学校教育ビジョンアンケートでは、すべての項目で90%以上の高評価を得ている。次年度も、継続して取り組む。
- 基本的な生活習慣の定着について、継続的な取り組みを続けてきたことで身につけてきている。毎日の取り組みとともに、夏休み・冬休みなど長期休業中も継続していく。
- 今年度の成果と課題を活かし、例年通りでなく新たな視点での具体策を探り、実行していく必要がある。
- 地域との交流、保・小・中との交流、保護者参観などは、ねらいを明確にし具体化するための活動を考え取り組む。
- オンラインによる研修を活用し全職員が学び合い、高め合う機会を工夫していく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 海蔵幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	遊びを通しての「学び」の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○感染症対策に取り組む中、繰り返し遊び込める時間の保障や環境構成に努めた。砂場や積み木では、自ら試行錯誤しながら繰り返し遊ぶことに夢中になる姿が1年を通して継続して見られた。特に5歳児は、どうすると面白くなるのか友だちと協力したり互いの意見を取り入れ工夫して遊ぶ力が育まれた。</p> <p>○混合保育（異年齢）を進める中、互いに身近に感じられる機会を意識して取り組んだ。4歳児は5歳児に憧れを持ち遊びを真似て発展させていく姿が多く見られた。</p> <p>○幼児が園内で見つけた自然物を遊びに取り入れていく環境を大切にしたい。そのことで園庭の自然環境に興味関心を持ち、四季折々の変化に気づき発見を楽しむ姿につながられた。</p> <p>○日常の遊びの中で見られる姿や課題を職員間で日々伝え合い、つきたい力やどうかかわっていくのかを共有しながら実践することができた。幼児の遊びへの意欲や自信、自ら考えようとする力につながった。</p> <p>○今後も感染症対策に取り組むと共に、幼児一人一人の発達の保障、経験の広がりにも努める必要がある。</p>	

重点目標2	健康な心と体を育む活動の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○広い園庭で思う存分体を動かし、鬼ごっこ、リレー、ボール遊びなど満足して遊ぶ姿が見られた。また、5歳児が挑戦する姿を見て、4歳児も雲梯、登り棒、鉄棒などに進んで挑戦する姿が増えた。一人一人が目標を持って意欲的に繰り返し挑戦しやり遂げる力につながった。</p> <p>○竹馬では、一人一人の気持ちに丁寧に寄り添った。諦めずに何度も挑戦する経験となり、幼児の自信を膨らませ成長につなげることができた。</p> <p>○コロナ禍のため収穫祭は少なかったが食育教材の活用に努めた。食材の栄養について知り、苦手な食材にも興味を持って少しずつ口にできる幼児が増えてきた。</p> <p>○保護者アンケートの「戸外で遊ぶことが好きになりましたか」では、92%が「満足している」という評価だった。</p> <p>○固定遊具に苦手意識を感じる幼児もいる。今後も継続して「やってみたい」と思える援助方法を工夫していく必要がある。</p> <p>○今年度は食育教材の活用に取り組んだが、自分の体を作る大切な食材であることを働きかけることは必要である。</p> <p>○手洗い、うがい、マスクの着用、ソーシャルディスタンス等、新しい生活様式を丁寧に言葉や表示で伝えることで身につけてきている。今後も継続して丁寧に指導していく。</p>	

重点目標 3	コミュニケーション力（豊かにかかわり合おうとする力）の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○幼児一人一人の気持ちを大事にし、受け止め寄り添ってきた。幼児は自分の思いを出し、様々な方法で表現できるようになった。</p> <p>○遊びの中で「伝える・聴く」を意識して取り組み、幼児同士が友だちの思いを考え合う場を大切にしてきた。自ら友だちの変化に気づいて声をかけたり、周りの友だちにも知らせたりして考え合う姿が見られるようになった。また、ソーシャルスキルトレーニング教室を持った。そこでの学びからも友だちへのかかわり方や言葉のかけ方に変化が見られるようになった。</p> <p>○異年齢のかかわりの中で、互いの育ち合いが見られた。「5歳児が4歳児に教えている姿や遊びに誘う姿」「4歳児が5歳児に憧れ自らやってみようとする姿」が増えた。</p> <p>○挨拶に関しては、保護者アンケートでも恥ずかしがるという意見があった。また、挨拶をする時、しっかり顔を見て伝える幼児が少ない。今後も教師がモデルとなり顔を見て丁寧に挨拶をし、気持ちよさや親しみを感じられるように取り組むことが必要である。</p> <p>○話を聞く姿勢が崩れたり、話の途中でしゃべり出したりする姿もあった。聞くときの姿勢を育むことは課題である。</p>	

重点目標 4	地域との連携と子育て支援の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○感染症対策を講じながら、花見、窯業研究室での虫取り体験、親子万古焼製作体験等、できる範囲での活動を行った。</p> <p>○地域へ出かけ、地域の方と栽培収穫を通じた交流は実施することができた。交流を楽しみにする姿が見られる。野菜の栽培の仕方について助言を得る機会も持ち、園内での栽培に生かすことができた。</p> <p>○親子遠足で地域の公園へ出向く機会を作った。自分たちの住む地域の自然に親しみ、地域の中での学びの場が広がった。</p> <p>○保護者の人材を活かして「親子サッカー教室」を実施した。体を動かす遊びを通じた親子のふれあい遊びの啓発やボール遊びへの親しみの推進につながった。</p> <p>○今年度は感染症拡大防止のため、例年行われていた公開保育、保育参観、地域交流、遊び会交流が難しい状況であった。今後もできることを探り、幼児の育ちへつながる工夫を図る必要がある。</p> <p>○降園時やおたより、H.P、掲示物を通して幼児の遊びの姿や育った力などを伝えることに努めた。日常の姿や表情を見たいという保護者の声もある。よりタイムリーに伝えることが課題である。</p>	

## 2 改善方針

<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の興味関心の幅を広げ、好きな遊びが深まるように教材研究・環境構成をしていく。</li> <li>・ 幼児の発達理解に努め、教師自身の力量を高める園内研修を充実させていく。</li> </ul> <p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動遊びの経験の幅が広がる環境づくり、教材研究を進めていく。</li> <li>・ 様々な遊具や運動遊びに関心を持つことができるような環境設定を整えていく。</li> <li>・ 教材を活用した食育活動をすすめ、食への興味関心を広げることを意識して取り組む。その中で、自分の体を作る大切な食材であることを意識できる取り組みを進めていく。</li> </ul> <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人の話を聞く時の立ち方、座り方、話す人の顔を見て聞くなどの態度が身につくよう、教師自身意識する。また、相手の立場から考えられるように幼児一人一人の話に教師もしっかり向き合う。そして、聞いてもらった喜びが味わえるようにする。</li> <li>・ 挨拶をする心地よさを感じられるよう、教師自身がモデルとなる。そして、幼児との信頼関係をしっかりと築くことを基に、挨拶を奨励していく。</li> </ul> <p>【重点目標 4】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍で制限されることもあるが、今年度同様、子どもたちにとっての豊かな経験を見極め、できることを工夫する。</li> <li>・ 掲示物に関しては、職員間での幼児理解を図ると共にその機会を位置づける。保護者のニーズを把握しながら、月に1回などと定期的な掲示に努める。</li> </ul>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 泊山幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	豊かな体験と夢中になれる遊びの充実	4
主な方策 成果と課題	<p>○教師が人的環境となって幼児たちと共に様々な運動遊びを楽しんでいく中で、体を動かして遊ぶことやルールのある遊びを友だちと遊ぶことを楽しむ幼児の姿が増えた。</p> <p>○竹馬、鉄棒、雲梯、縄跳び等に挑戦する機会を作り、個々で目標を決めて取り組んだことで、“やってみたい”という気持ちが芽生え、“やってみたらできた”といった経験が自信や意欲に繋がった。</p> <p>○日々の遊びの中で楽しい遊びを共に考えたり、工夫したりして、色々な経験が出来るようにかかわった。</p> <p>○園内の木々、花壇の葉や花などを見たり、生き物を見つけたりして季節や自然に触れる経験をした。畑で野菜を育てたり、収穫したりする経験は感動体験となった。</p> <p>◇体を動かして遊ぶ経験が少なかった幼児がより興味を持ち、体を使って遊ぶことが好きになれるような取り組みをすすめる。</p> <p>◇コロナ禍の影響もあり、園外保育の機会や収穫したものを食べる経験が少なくなった。安全性を考慮した中でどのような経験ができるか取り組み方を工夫していく。</p>	

重点目標2	高い自尊感情を持つ幼児の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○基本的な生活習慣では自分の体は自分で守ることは大切であることを知らせながら、手洗いうがい、マスクの着用等、今年度は意識を強く持てた。</p> <p>○朝や帰りの身支度や片付け等、自分から進んでやっていこうとする姿をしっかりと認めていくことで、“自分のことは自分でする”ということに自信をもって行動しようとする幼児が増えた。</p> <p>○教師がすすんで挨拶をすることを心がけ、友だちや来園者の方に自ら挨拶をしようとする姿が見られるようになった。</p> <p>○幼児が様々な行動で思いを表現することを受け止めるようにしたことで、自分の気持ちが相手に伝わる経験をし、安心感をもって話す意欲が増した。</p> <p>○一人一人の幼児を認める、受け止めるかかわりを大事にし、自己肯定感を高められるようにした。友だちとのかかわりの中で相手の思いに気づいたり、気遣ったりする姿がみられるようになった。</p> <p>◇自分の思いをしっかり受け止めてもらったり、話を聞いてもらったりする経験から人の話を聞こうとする力を育てていくように取り組みをすすめる。</p> <p>◇保護者アンケートの“自分のことは自分でしようとする”については、ほかの項目より低めであった。保護者と一緒に考え、家庭とともにすすめていく取り組みを継続する。</p>	

重点目標3	地域・保護者と連携・協働する教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○コロナ禍の影響もあり、地域の方との直接的な交流をもつことが難しかったが地域の公園に出かけ、実際に梅の花を見たり、地域の自然の話や写真などを見せたりして地域への関心がもてるようにした。</p> <p>○遊び会は、開催方法を工夫しながら実施することができ、地域の未就園児や保護者との交流を図ることができた。</p> <p>○送迎時に遊びの様子や友だちとの関係を伝えたり、子どもたちの様子をたよりなどで発信したりした。また、保護者の方からも話を聞いたりして、家庭と園との連携を図ってきた。</p> <p>◇成長を共に喜んだり、悩んでいることを共に考えたり、相互にやりとりができる家庭との連携や地域、近隣の校園との交流を工夫し、行っていく。</p>	

重点4	学び合い、聞き合い互いに高めあえる職員集団の形成	3
成果と課題	<p>○幼児へのかかわり方、幼児理解など職員間で共通理解を図り、互いの意見交流をしながら、日々、目標、計画、実践、振り返りを行い、よりよい保育の実践に努めた。</p> <p>○人権・同和教育の視点で、課題や方策について皆で考え合う研修を進めた。職員それぞれの取り組みを伝え合い、自らの見方をや考え方を見直し、保育の振り返りにつなげた。</p> <p>◇「もっと遊びたい」「友だちと遊ぶのが楽しい」と感じ、豊かな体験、遊びの充実につなげるため、職員で学び合える研修をすすめていく。</p>	

## 2 改善方針

<p>&lt;重点1&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防に努めながらも、どのような方法ならば園外に出かけていけるのか、地域との交流ができるのか可能な方法を探っていく。</li> <li>・園内の自然や物的な環境に幼児が意欲的にかかわり、「やってみたい」と思える魅力ある環境の構成を工夫する。</li> </ul> <p>&lt;重点2&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いをうまく表現できなかつたり、相手の考えを受け入れづらい幼児の姿も見られる。表現する機会を意図的に作ったり、自分とは違う考えを受け止め、気持ちが通じた時の嬉しさの体験を積み重ねていったりするなど、今後も援助の仕方やかかわり方を考えていく。</li> <li>・引き続き「話す」、「聴く」力をつけていく環境を整えていくことが大切である。語彙が豊富になるよう教師が正しい言葉で幼児と接し、コミュニケーション能力を高めていけるようにする。</li> </ul> <p>&lt;重点3&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児、保護者ともに心地よく園生活が送れるよう努め、気軽に相談が出来るような雰囲気や環境を作っていく。</li> <li>・今年度は行事を行う前に色々と考え工夫をしたことで、行事について見直す機会にもなった。幼児の発達を考えながら行事の在り方を今後も検討していく。</li> </ul> <p>&lt;重点4&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児一人一人の幼児理解を深め、職員間で意見を出し合いながら具体的な手立てがわかる研修をすすめていく。</li> </ul>
--

## 【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 内部幼稚 園

## 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	健康な心と体の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○表示や取り組み方を工夫したことで、基本的な生活習慣が定着してきた。特に手洗いは、幼児自身の健康意識が高まり、丁寧に行う姿が見られるようになった。保護者アンケートでも「手洗い・うがいをすすんでする」との評価が得られた。</p> <p>○栽培活動を計画的に実施することで、育てていく過程で野菜の生長に気づいたり、収穫する喜びを味わったりするなど、連続性のある学びへとつながった。</p> <p>○園外保育では、小学校の自然学習施設を借りて山道を登り下りした。普段できない経験をすることで、体力づくりや体を動かすことへの意欲につながった。</p> <p>◇戸外で遊ぶ姿が多くみられたが、ルールのある遊びやダイナミックな遊びをすることは少なかった。鬼ごっこやドッジボールなど、友だちと誘い合って積極的に体を動かすことができるように、計画的・継続的な工夫が必要である。</p> <p>◇感染症対策をする上で、健康な身体づくりの大切さをより理解し、幼児自ら取り組めるように教材研究を進めていく必要がある。</p>	
重点目標2	コミュニケーション力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○職員が毎日丁寧に挨拶をすることで、挨拶を交わす心地よさが感じられるようになった。また、地域の方と連携し、幼稚園前の通路に標語を設けたところ、自分から挨拶する幼児が増えた。</p> <p>○言葉にならない思いにも寄り添うことで、自分の気持ちと向き合い、友だちと心がつながる心地よさを感じられるようになってきた。</p> <p>○幼児の何気ないつぶやきを敏感にキャッチし、受けとめ認めていくことで、自己肯定感が高まり、友だちを認めたり、励ましたりする気持ちが育ってきた。</p> <p>○自尊感情を高め、互いに認め合う大切さを感じられるよう、絵本を積極的に活用し、豊かな心情を育むことができた。</p> <p>◇保護者アンケートでは、「自分から挨拶ができる」の評価がやや低かった。家庭とともに取り組むための啓発がさらに必要である。</p>	
重点目標3	学びにつながる意欲の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○幼児の姿に合わせて、環境を作り変えていくことで、「もっとやりたい」という思いにつながることができた。</p> <p>○幼児が興味を深めていく言葉がけや環境づくりをしたことで、共通のイメージや目標を持って遊びを進めていこうとする姿が見られるようになってきた。</p> <p>○季節に応じた栽培活動、チョウの幼虫やメダカの世話、自然物を取り入れた遊びなど、身近な自然に触れ合う体験を大切にしたい。保護者アンケートにおける「自然の変化に気づくようになりませんか」に対する評価も高かった。</p> <p>○感じたこと、気づきを受け止めクラスで伝え合ったり、展示物や図鑑などの環境を工夫したことで、考えを出し合ったり、試したりする姿が見られた。</p> <p>◇幼児が、自ら考え工夫するための環境構成、教材準備については、年齢、発達に合わせて、より一層の研修が必要である。</p>	

重点目標 4	保護者・地域との連携・協働	3
主な方策 成果と課題	<p>○おたよりなどを通じて、健康な身体づくりについて啓発を行ってきたことで、徒歩通園する家庭が増えてきた。</p> <p>○その日の活動やねらいをホワイトボードに書いて知らせたり、写真を掲示したりすることで、より詳しく幼児の姿を伝えることができた。</p> <p>○臨時休園中には、各家庭に家庭で楽しめる遊びや制作の教材、教師によるダンスや絵本の読み聞かせのDVDを配布し、教育の充実を図った。</p> <p>○家庭訪問・個人懇談会などで、幼児の姿や育っている力、家庭での様子、保護者の悩みや願いなど子育てについて、一緒に考えることができた。</p> <p>○地域の励まし隊の方に、竹とんぼやどんぐりゴマを作っていただいたり、一緒に畑の栽培活動をししたりするなど、幼児にとって充実した経験ができた。交流を重ねたことで、より地域の方に親近感を持って接することができるようになった。</p> <p>◇幼児自ら危険を判断し、落ち着いて行動できる力をつける必要性を、家庭と共有することが大切である。</p> <p>◇教師の思いを伝えるだけではなく、保護者の思いも十分に受け止めていく関わりが必要である。話をする機会を逃がさず、話しやすい雰囲気作りに努めたい。</p>	

重点目標 5	園運営の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>○一人ひとりの性格や特性を丁寧を受け止め、職員間で共通理解を持ち、伝え合い、職員全員で幼児を見守ることが、園全体のあたたかさにつながっていた。</p> <p>○講師を招聘した研修を計6回行うことができた。専門的な指導もいただき、日々の保育に活かされたことが多く、成果がみられた。</p> <p>○園内研修や職員会議を通して、職員間で幼児の姿や育ちを共有した。日々の保育の中での職員間の連携がさらに強まった。</p> <p>◇幼児一人ひとりの興味や発達に応じた教育活動が展開できるよう、教師は今後も一緒に遊び、生活する中で幼児理解に努める。その中で、発達課題を明らかにし、職員全体で共通理解をして指導援助できるようにする。</p> <p>◇園内研修の定例化や内容の工夫をしていく必要がある。</p>	

## 2 改善方針

<p>【重点1 健康な心と体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達に応じた運動遊具を用意するなど、幼児の自発的な活動を促す環境づくりを工夫する。</li> <li>・身近な自然とゆったり触れ合う、園外へ出かけ地域を知る、交通マナーを学ぶなどの機会を計画的に実施していく。</li> </ul> <p>【重点2 コミュニケーション力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちが通じ合う喜びを感じ、互いの意見を聞き合い、考え合う気持ちが育っていくように実践検討を増やす。</li> </ul> <p>【重点3 学びにつながる意欲の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に幼児の意欲的な姿を出し合い、意欲が継続したり充実感を得たりするための援助や手立てを話し合う。</li> <li>・遊びの様子を撮影し、園内研修で自分自身の保育を振り返ったり、他クラスの指導を見る機会を設けたりする。教師の幼児の見方や援助のあり方を討議し、教師の専門性を高めていく。</li> </ul> <p>【重点4 保護者・地域との連携・協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、保護者や地域に開かれた幼稚園のあり方や連携・協働のあり方を見直し、幼児たちの経験を保障できるように発信していく。</li> </ul> <p>【重点5 園運営の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の人権感覚を磨くための研修を行う。一人ひとりの内面を読みとり、気持ちに寄り添いながら、失敗や間違いにとらわれることのないようにその子に合った支援を意識する。</li> </ul>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 川島幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	心身ともにたくましい子どもを育てる	4
主な方策 成果と課題	<p>○鬼ごっこやボール遊びなど遊びの経験を広げ、体を思い切り動かすことができた。またテラスに平均台など設置し環境を工夫したことで意欲的に挑戦する姿がみられた。体のどの部分の力をつけたいか把握しながら体づくりに取り組んでいきたい。</p> <p>○友だちの挑戦する姿に刺激を受け、自らもやってみようと思欲を持って、取り組むことができた。幼児同士励まし合う姿もみられた。</p> <p>○自分たちでやり遂げたと感じるには教師のかかわりが必要な時もあったが、教師が励まし支えることで充実感を得ることができた。</p> <p>○栽培活動では野菜の生長の変化に気づき、収穫を喜ぶ幼児の姿があった。収穫した野菜を園で調理する機会は少なかったが、収穫した野菜を家庭で調理し食べるなど、家庭と連携して食育活動を進めることができた。</p>	
重点目標2	友だちと意思を出し合いながら、遊びに夢中になる子どもを育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>○幼児の興味を引き出しながら、イメージすることを実現できるよう思いをくみとり教材を整えることで、表現することの喜びや充実感を味わうことができた。</p> <p>○遊びの中で個々の思いが違ふ時に、教師が間に入りながら、相手の思いに気づいたり、目的実現のためにはどのようにしていくとよいかを考えたりすることができた。</p> <p>○自分なりの言葉で思いを伝えようとするが、うまく表現できなかつたり、その場に合った言葉がみつけれなかつたりして、自分の思いとは異なる行動をしてしまう幼児もいた。幼児の発達を捉え、思いを伝えられるよう援助していきたい。</p> <p>○教師が幼児の側にいる機会が多かったことで、安心して話ができることは良かったが、教師を頼る姿もみられた。今後は幼児自身が考えようとする気持ちになる援助を工夫していきたい。</p>	
重点目標3	家庭や地域との連携を深め、教育内容に反映し、その充実を図る	3
主な方策 成果と課題	<p>○今年度はコロナ禍のため、園内で実際に幼児の姿をみてもらう機会が少なかった。降園時に活動の様子や遊びの場面の写真に言葉を添えて掲示し、視覚的に園での取り組みを伝える工夫をした。今、保育の中で大切にしていることなど理解を深めていくきっかけをつくることができた。</p> <p>○地域の方にお世話になっていることを具体的に幼児に伝えることで、親しみを感じられるようにしてきた。今年度は直接交流することができなかつたが、メッセージカードで感謝の気持ちを伝えたり、地域へ散歩に出かけたりするなど、できることで地域の人とのつながりを感じられるようにしてきた。</p> <p>○登降園時などに、保護者に園での姿や幼児の育ちについて具体的な姿から話をしていくことを心がけた。幼児の成長を共に考え、喜び合うことができた。</p> <p>○PTA活動などが制限される中で、保護者同士が子育ての事などいろいろな話をする機会が少なかった。保護者同士のつながりを作る手立てを工夫していくことができるとよかった。</p>	

## 2 改善方針

- 4、5歳それぞれの発達を保障をしていくためにも、教師一人ひとりが幼児の発達を正しく捉え教師力を高めていくことが必要である。計画的に園内研修を行い、保育を振り返り改善点を考え具体的な幼児の姿と教師のかかわりをあげ、園全体で共通理解していくことに努める。
- 異年齢の混合クラスで、人数が少ないこともあり、遊びを充実させようと教師の思いが強くなることがある。遊びの過程を大事にし、1年を見通して遊びを経験することができるように工夫する。またそのための環境を充実させていく。
- 幼児自身が友だちとつながりたいと思い、自分で考え動き出す姿を大切にできるよう、教師のかかわりを考えていく。
- 自分が住んでいる地域に興味や親しみが持てるよう、またより一層の体力向上のため、園外保育をカリキュラムの中に計画的に取り入れていく。
- 今年度はコロナ禍のため、地域の方との交流ができなかったが、地域の方や小中学生と交流し、触れ合う中で、いろいろな人に温かく見守られていることを知ったり、自分が役に立っていることや大切にされていることを感じたりできるような取り組みを続ける。また、保護者同士がつながりが作れるような機会を作ったり、働きかけをしたりしていきたい。

## 【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 神前幼稚 園

## 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	遊び込む環境づくり	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の興味関心を探り、どのような環境を整えると遊び込めるのか、日々幼児と一緒に遊んだり、試したりしながら環境構成に努めてきた。教師とともに幼児が遊ぶ場を作ったり、広げたりして、より遊びを楽しむ姿が見られるようになった。</li> <li>・ 保育園児とともに生活したが生活時間が異なるため、次年度は、環境設定について幼児の姿に合わせて共に考え実践していきたい。</li> </ul>	

重点目標2	コミュニケーション力を育む	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園児と生活を共にすることで、集団の規模が大きくなり、様々な友だちから影響を受け、気の合う友達が増える中で、自分なりに相手にかかわってこうとする姿が見られた。</li> <li>・ 大きな集団の中で刺激も受けたが、自己表現ができにくい時もあった。今後は、教師が橋渡しをしたり、一緒に遊びながら気持ちをほぐしていくなどの援助をし、幼児同士がよりコミュニケーションを図れるようにしていく。</li> </ul>	

重点目標3	健康な心と体を育む	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人に応じた指導の仕方を工夫することができ、毎日の繰り返しの中で、基本的な生活習慣が身についてきた。また、戸外で身体を動かすことが苦手な幼児も、戸外で遊ぶ友だちの姿に刺激を受け、自ら挑戦したり、集団遊びに参加したりする姿も見られるようになった。</li> <li>・ 食育においても、給食を通して、家庭で食べたことのないメニューや味付けに出会い、食べられる食材や量が増え、体作りにつながった。</li> <li>・ 次年度も、コロナ感染症、熱中症の対策を徹底しながら、活動の場や内容を工夫し、幼児が健康で安全に過ごせる園生活を継続していく。</li> </ul>	

重点目標4	人権同和教育の充実	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友だちと遊ぶ中で、自分の気持ちを伝えたり相手の話を聞いたりしながら、自分と違う考えや思いにたくさん触れることができた。意見や思いが食い違った時、どうしていけばよいか、教師と一緒に考え、幼児なりに解決しようとする姿も多くなった。</li> <li>・ 丁寧に気持ちを聞き取ったり、周りの幼児も巻き込みながら、自分らしさが発揮でき、自ら行動しようとする意識が持てるようにしていきたい。</li> </ul>	

重点目標5	家庭や地域とともに進める教育活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ感染症対策のため、地域へ出かけたり、地域の方々との交流の場を持つことが難しかったが、工夫してできることを探しながら、教育活動の充実に努めた。家庭とのつながりはしっかり持てた。次年度も引き続き家庭と連携しながら、教育活動の充実につなげていく。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の教育・保育実践を活かし、幼稚園と保育園とで話し合いを深め、改善していく。</li> <li>・ 新しい生活様式を取り入れながら、教育活動の計画を見直し、コロナウィルス感染対策と教育活動の充実を図っていく。</li> </ul>	
--	--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 三重幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	一人一人の違いを認め合う幼児の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○一人一人を認め合えるクラスづくりをする。</li><li>○共感しあう体験や協働的な活動を経験する。</li><li>○一人一人が活躍する場面を作る。</li></ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・一人一人を認め合うクラスづくりに関する園内研修を計画的に行ったことから、多面的に幼児を見ることができた。</li><li>・運動会やお店屋さんごっこなど、友だちやグループで一緒にする活動の中で、自分の意見を出したり共感したりする経験ができた。</li><li>・遊びや生活の中で友だちの表情やしぐさを見て感じ取り、友だちを励ましたり、教え合ったりする姿が見られた。</li></ul>	
重点目標2	友だちと一緒に、思い切り体を動かして遊びを楽しむ幼児の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○戸外で十分遊ぶ経験をする。</li><li>○みんなで体操をしたり、ダンスをしたりして表現することを楽しむ。</li><li>○家庭と連携し、基本的な生活習慣が身につくようにする。</li></ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・幼児が楽しめる体操やダンスを継続的に取り入れたことで、体を使って遊ぶようになるようになった。</li><li>・教師や友だちと鬼ごっこやドッジボールなどの集団遊びを楽しみ、竹馬・竹ぼっくり、縄跳びなど初めて経験することに対して挑戦する気持ちを持つようになった。</li><li>・自分なりの目標を決めて取り組む姿があり、達成感を感じるようになった。</li></ul>	
重点目標3	友だちと一緒に、豊かに自然と関わる幼児の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○地域の自然を生かし、幼児の体験を豊かにする。</li></ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域の方の協力を得て、野菜の栽培・収穫を経験し、家庭に持ち帰ることができた。家庭で調理してもらい、親子の会話や食の豊かさにつながった。</li><li>・園内の自然環境を利用し、虫などの飼育や植物の栽培を経験できた。捕まえた虫などを図鑑で調べたり、飼育環境を考えたりすることで、生き物への愛着や豊かな感性を育むことができた。</li><li>・今年度はコロナ禍によって園外保育を中止することがあり、歩く経験が減った。近隣の地域の環境を活かしながら、歩くことで養われる力について保護者に発信し、さらに体づくりに関して連携をしていく。</li></ul>	

重点目標 4	遊びから学びを引き出す保育の実践	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○保育環境の見直しをする。</li> <li>○具体的な遊びの場面から幼児につけたい力を考える。</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児に経験させたい保育内容や環境設定について検討・実践したことで、主体的に遊びに取り組む姿につながった。</li> <li>・ 遊びの中で試行錯誤する活動を重視し、時間や場所を保障したことから、気付いたり伝えたりする姿が見られ、幼児の満足感や遊びの充実につながった。</li> <li>・ 毎日の読み聞かせから絵本に親しみ、想像力が広がった。</li> <li>・ ごっこ遊びや運動遊びの中で、文字を書いたり数を数えたりする場面をつくったことで、文字や数への興味・関心を持つことができた。</li> <li>・ 遊びから学びにつながる場면을可視化し、さらに保護者や地域に発信していく必要がある。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・ 幼児期の終わりまでに育みたい「10の姿」について、保育実践を通し、具体的に取り上げて考えていくことで、遊びから学びを引き出す保育実践を可視化していく。
- ・ 降園時に、幼児の活動内容の写真掲示を行ってきた。引き続き遊びの場면을捉えて具体的な幼児の成長の姿を伝えるようにしていく。
- ・ 体力づくりにつながるように、多様な動きにつながる遊びや活動を計画的に取り入れてく。
- ・ 手遊びや絵本の読み聞かせなど日常的な活動の中で、一人一人の興味や関心を捉え、さらに家庭連携をすすめていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 保々こども 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	夢中になって遊ぶ《学ぶ》教育内容の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>○コロナの感染拡大防止に向け職員間で綿密な打ち合わせを行い、十分な注意を払ってきた。子ども達が自ら選んで遊びだせる環境設定や危険への配慮に工夫を重ね子ども達が楽しく思い切り体を動かせるようにしてきた。</p> <p>○子ども達の成長発達に合わせて保育を展開してきたことで子ども達が意欲的に体を動かす姿につながった。園教育ビジョンアンケート結果でも登園を喜び、遊びも楽しんでいる、園の教育に満足しているという項目で思う・そう思う回答が97%以上であった。</p> <p>◎子ども達の姿を捉えた事例や実践検討の中で保育教諭一人一人が思いを出し合い、話し合うことで、最初は食い違いやぶつかり合うこともあったが、十分に思いを出し合うことで調整が取れるようになってきている。互いを知り合う良い機会として今後も時間の確保を工夫し、研修出来るように計画的に園内研修を持つ必要がある。</p> <p>◎コロナの影響が、行事や子ども達の生活にも及んでいる。今後もしばらくこの生活が続くと思われるので全職員で環境への工夫や配慮について考えていく必要がある。</p>	
重点目標 2	健康で安全・安心な生活の保障	3
主な方策 成果と課題	<p>○メリハリのある規則正しい生活を心がけ、職員全体で保護者啓発(園だより、クラスだより他)に取り組んだ。基本的な生活習慣の大切さや必要性を一人一人にきめ細やかに伝わらる中で保育教諭が伝えてきたことが子ども達の意欲につながり、保護者の協力も得られるようになってきた。</p> <p>○コロナの不安を和らげられるように保護者に丁寧に対応してきたことが理解を得ることにつながった。</p> <p>◎周りの状況を見極め、地域や保護者の状況を見た上で感染症対策を考え安全、安心を第一に一人一人が伸びやかに心身共に健康な生活が送れるような環境を全職員で考えあい、共通認識を持って保育を展開することが大切である。</p>	
重点目標 3	特別支援教育・保育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○あけぼの巡回や巡回・就学相談といった学びの場を多く作り、還流報告の時間が充実するように工夫を重ねた。全職員で情報共有して子ども達と向き合ってきたことが、円滑な保護者連携や保護者のこども園へのよりよい理解につながった。</p> <p>○こども園で子育て支援センターが併設となり、未就園児の情報も把握できることで支援の方法などより早く対応し、関係性も早くつけられるように今後も努力したい。</p> <p>◎一人一人の子ども達が最善の利益を得られるように担任、加配が細やかな連携を取り、情報共有したり、必要に応じた情報発信を今後も続けていく必要がある。</p> <p>保護者連携や家庭訪問の形を工夫し、家庭とも十分に連携を取り共に子育てする姿勢を持ち続けたい。ビジョンアンケートの結果からも十分に保護者と話す中で子どもにつけたい力を明確にし、先の見通しを持って子育てできるように考えあいたい。</p>	

重点目標 4	小・中・高・プラザ・地域・保護者との連携と協働	2
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>○地域との連携は公開保育を分散して行ったり、こども園での活動の取り組みをクラス前のボードやHP、園だよりで発信したことが新しくなったこども園を知り、関心を寄せてもらうことにつながっているとの評価もあり、今後も皆で工夫し継続したい。</p> <p>○新しいこども園に不安もあったが、様々な方法で子どもの姿を発信する工夫をしてもらったことや友だちが増えたことを喜び、刺激を受けあって成長している姿から安心感が持てたというアンケートの意見もあり、良かった。</p> <p>◎今まで保育園、幼稚園で行っていた保護者が集まる行事が今年はコロナウイルス感染症対策もあり開催が制限された。運動会、2学期以降の保育参加を方法を工夫して開催したことが親同士の知り合える機会となった。今後もこの状況が続くと予想されるが保育教諭と保護者と連携し、工夫し合ってクラス懇談や保育参加などを取り入れ保護者同士が繋がる機会としたり、こども園での子どもの姿を保護者が参観できる場を作っていきたい。</p>	

## 2 改善方針

<p>&lt;重点1・3&gt;</p> <p>○幼稚園、保育園と一緒にこども園としてのスタートを切った。今年度は特に計画的に園内研修や職員打ち合わせの時間を取り、それぞれが思いを出し合う中で共通認識を持って保育できるように工夫してきた。子ども達の最善の利益をめざし、より良い環境の中で保育が展開できるように様々な研修の機会を積極的に活用し、還流を十分に行うことで職員の資質向上を図りたい。一人一人の記録を分かり易く残し、職員が共通認識を持って保育にあたりたい。子どもの記録をもとに、成長に合わせて指導法や環境構成を話し合い変化させ、子ども達が意欲的に活動できるような環境構成の構築が出来る職員集団作りを目指したい。</p> <p>&lt;重点2&gt;</p> <p>○コロナの影響は今後しばらくは続くと思われる。情勢を見ながら、園に合った指導方針、保護者連携を模索できるように努力したい。また、懇談会、保育参加については今年度の取り組みをもとに、修正し、うまく取り入れる方法を考えたい。今年度充実させてきた園内の活動をクラス前ボードで知らせたり、ホームページや園だより、クラスだよりで知らせたり、クラス前ボードに保護者の感想欄を設けたり、園だよりの自治会回覧など考えたい。</p> <p>&lt;重点3&gt;</p> <p>○一人一人をきめ細やかにみていくとともに、必要な研修に積極的に参加し還流を充実させ、職員の資質向上につなげていく。また、記録を多面的に取りながら、周りとの関係性をつけていけるように工夫していく。</p> <p>&lt;重点4&gt;</p> <p>○研修についても分散的な開催や、リモート、ズーム、ビデオ(動画)をもとにしての研修など工夫しながら次年度は進める必要がある。保育の中で保々地区の育ちのプログラムの6視点である「だいすき」「つながる」「じっくり」「やってみる」「すこやか」「まなぶ」を意識した保育を発信しながら、小・中・高・プラザ・地域・保護者との連携を考え、工夫し実践していきたい。</p>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 下野幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	健康な心と体づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>・体づくりでは、固定遊具に意欲的に取り組むことができるように、様々な工夫をした。その結果、苦手な幼児も少しずつ目標を決め固定遊具に挑戦する姿が見られるようになった。また、サーキット遊びをホールに設定し、跳ぶ・わたる・まわる・登る・ぶらさがるの動きができるようにした。回数を重ねるごとに高さや内容に変化をつけて、多様な動きを経験できるようにした。</p> <p>・コロナ禍で、クッキングはできなかったが、食に興味を持てるようにクイズ形式に色々な材料を赤・緑・黄食品群にわけ、磁石で掲示したり、机の隣とのしきりに食の3食品群表を使ったりした。そのことで食の3食品群に興味を持ち、自分の体を作るためにどのような物を食べたらよいか考えるきっかけとなった。</p> <p>・生活状況調査のアンケートをとり、自園の特徴を掴み、おたよりで保護者に知らせた。「早ね・早起き・朝ごはん・朝うんち」の大切さを子ども達にも伝え、基本的な生活習慣が身につくように取り組んだ。</p>	
重点目標 2	豊かな表現力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>・安心して園生活を送ることができるように、教師との信頼関係を築くことを第一に考えた。幼児の好きな遊びを十分に楽しめるように環境設定をし、教師も一緒に遊びを楽しむようにした。</p> <p>・一人一人が様々な表現方法で思いを表出するので、教師はその思いをしっかりと受け止め、思いの裏にある背景を考え、職員同士でかかわりを話し合ってきた。教師一人で抱え込むことなく、全職員で共通理解を図りながら対応策を考え、よりよいかかわりへと繋げた。</p> <p>・遊びや生活の中で思ったことなどを伝えるのが苦手な子どもに対しては、言葉を引き出すような問いかけをし、具体的な伝え方を一緒に考えた。徐々に伝えられるようにはなってきたが、今後もかかわりが必要である。</p>	
重点目標 3	豊かな人間性を育み、人とかかわる力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>・子ども達が興味を持っている泡遊びを年間を通してすることができた。繰り返し遊ぶためには、教師の思いだけでなく、子どもの思いや発達にも大きく関係してくることがわかった。また、教師と一緒に遊ぶことで、遊びの発展に気づき、次の手だてへとつながった。</p> <p>・年少児が年長児の遊びを真似したり、一緒にリレーごっこをするなど自然な交流ができた。</p> <p>・当番活動では、責任をもって行うことができた。今後も、自分たちで率先してできるように、かかわっていきたい。</p> <p>・挨拶については、徐々に子ども達から積極的に教師や友だちに挨拶する姿が増えてきた。今後も教師が見本となり声をかけていきたい。</p>	

重点目標 4	家庭・地域・保小中との連携	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 降園後の保護者との会話の中から、保護者の思いを受け止め、職員で話し合い、改善に努めるようにしてきた。今後も保護者に寄り添い、共に子どものよりよい育ちについて考えていきたい。</li> <li>・ 地域交流で老人会の方々と「ポッチャ」を通して交流が深められた。コロナ禍で交流が少なかった中で、幼児にとって心豊かな経験になった。</li> <li>・ 中学校家庭科の授業で使用する「幼児とのかかわり方」の資料を、地域の幼稚園・保育園で作成した。幼児の生活や遊びの中から、写真を出し合い、話し合うことで幼児のかかわり方を再確認することができた。</li> <li>・ 小学校1年生交流として今年度は、1日の流れのDVDを頂き、年長児が視聴した。授業風景や給食などの映像をみることで、とてもわかりやすく小学校への期待が膨らんだ。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体を使った遊びを年間を通して、楽しみながら行えるように、月案・週案に計画的に取り組んでいきたい。</li> <li>・ 職員同士が常に連携し、幼児一人一人の姿を捉え、話し合うことに努めてきた。今後も、幼児の姿を丁寧に捉え、それぞれの幼児に適した必要なかわりについて考えていく必要があると感じた。</li> <li>・ 今後も、子ども達に寄り添いながら、安心して園生活が送れ、自己発揮できるように、子どもたちにとって過ごしやすい環境を見直していきたい。</li> <li>・ コロナ禍のため、園外保育、地域交流等が難しかった。来年度は、コロナの状況をふまえて、密にならないように工夫しながら、行事のもち方を考え進めていきたい。</li> <li>・ 園外保育は、長期的計画を立て、下野の自然にふれあう機会を設けていきたい。</li> </ul>
--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 羽津幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	遊びを通しての学びの充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○跳び箱や縄跳びなどを通して、教師や友だちに励まされたり、繰り返し楽しんでいる友だちに刺激を受けたりして意欲的に遊んだ。目標を持って根気よく楽しく取り組むことが子どもたちの達成感につながった。</p> <p>○コロナ禍で園外活動の経験が少なかったため、お店屋さんごっこや電車ごっこなど実体験に近い遊びを園内で楽しく体験できるようにした。今後も子どもたちの豊かな経験につながるよう、遊びの充実を図っていく。</p> <p>○教師や友だちと一緒に自分の好きな遊びを見つけ、友だちと共有し、様々な遊びを楽しむことができた。</p> <p>○思いを出し合いぶつかり合う中で、子ども自身が考える経験となるよう、教師の声のかけ方やタイミングを工夫した。今後も子どもとともに遊ぶ中で、教師は、子どもの発達に合わせ継続して関わりを工夫していく。</p> <p>○子ども同士が親しみをもち、自らの経験を遊びの中で表現し互いに刺激し合いながら遊びを楽しんだ。また、友だちと試行錯誤しながら自分たちで遊びを進める充実感も味わった。今後も幼児同士のつながりが広がるよう、教師はいろいろな場面できっかけ作りを工夫していく。</p> <p>○戸外での遊びを十分楽しんだ。今後は、さらに子どもたちの意欲を大切にしながらいろいろな運動遊びを通して遊びの経験を広げていく。</p>	
重点目標2	人とかかわる力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○コロナ禍のためふれあい遊びができにくかったが、人との距離を保ちながらルールのある遊びをしたり、同じ場所で遊んだり共有したりするなど工夫して遊んだ。次第に子どもたちは、相手の気持ちに気づき親しみが持てるようになった。</p> <p>○思いがぶつかった際には子どもの様子を見守りながら教師が関わった。受容の関わりや見守りで、自分の思いを伝えたり相手の気持ちを聞いたりする姿へと変容した。</p> <p>○教師や友だち、来園した地域の人に対して自ら進んで挨拶するようになった。</p> <p>○リズム遊びやごっこ遊びなど一緒に楽しむ経験を通して、相手の思いにふれたり伝える喜びを感じたりすることができた。</p> <p>○自分の思いを上手く言葉で表現できず、怒ったり泣いたりすることもあった。教師が子どもの気持ちを汲みとり言葉を補うことで、子どもが自分の気持ちを知り、思いと言葉を結び付けて子ども自身の表現へとつながった。</p> <p>○子ども同士が互いを認め合って遊びを進める楽しさを味わうことができた。また、アイデアを出し合って考える機会を大切にしながら見守ったり必要に応じて言葉をかけたりした。自分たちで考えやってみようとする姿につながった。</p> <p>○子ども自身が友だちの様々な姿に気づけるよう、自分の主張や気持ちの折り合いをしながら次第に相手を受け入れる気持ちが育つよう今後も支援の在り方を探っていく。</p>	

重点目標 3	地域や家庭、専門機関との連携の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○今年度は保護者参観や地域へ出かけることが少なかったため、日々の保育の中での子ども様子を丁寧に伝え、家庭での様子も聞きながら保護者とともに子育てについて考える姿勢に努め、手立てを工夫した。</p> <p>○便りやHP、個々の声掛けで子どもの姿や園の取り組みを伝えてきた。実際の子ども姿を見る機会が減少した分、より伝わりやすい工夫が必要であった。実際の姿と一致し具体的な伝え方となるよう発信方法を工夫していく。</p> <p>○保護者の思いや願いを十分捉えて、より良い保育へとつなげていく。</p> <p>○例年より専門機関との研修を重ねることは少なかったが、ネット環境を活用し新しい形で学び合うことで子どもの発達や関わり方について多くを学んだ。</p> <p>○今年度学んだことを次年度も継続し、保育実践に生かすことができるよう努めていく。</p>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>運動遊びの見直し</u> 運動遊びを通して、子どもの意欲や発達につながることや進め方など、教材研究を密にして遊びの中に取り入れていけるよう職員間で計画的に研修を重ねる。</li> <li>・ <u>大学連携の活用</u> 大学連携研修をして、子どもの遊びや体づくり、発達について深く学び保育実践につなげる。</li> <li>・ <u>子どもを受容し一人一人の自尊感情を高める</u> 子ども自身がしてもらって嬉しいことを友だちにもしてあげたいと思える関わりを充実させたい。一人一人の子どもが「自分も友だちも大切」と思えるよう、一人一人の職員が人権意識を高めクラス運営に努める。</li> <li>・ <u>職員連携と資質向上</u> 日々の保育の中で 全職員で声掛けを密にし園ビジョンを意識しながら保育に努め、子どもたちのよりよい育ちへとつなげる。</li> <li>・ <u>保護者への気持ちの寄り添い</u> 園と家庭がともに子育てを考えていくことができるように、職員全員で丁寧な気持ちの傾聴や受け止め、一緒に手立てを考えていく。</li> </ul>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 富洲原幼稚園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	遊びの充実を図る	4
主な方策 成果と課題	<p>○入園当初は不安な様子の幼児も見られたが、その子の気持ちをしっかりと受け止めることで、安心して遊ぶ姿に変わっていった。遊びの中で、幼児の興味を持っていることや、やってみたいことを探り、環境を整えていくことで、より幼児の意欲につながっていった。</p> <p>○教師と幼児の1対1の関わりを十分にすることで、幼児が満足し遊びが発展していくことに気づくことができた。</p> <p>□幼児の情報を共有したあと、いろいろな気づきがあった。その情報をもとに目の前の幼児に応じた環境設定を整えていくことが大切である。</p> <p>□4歳児なりに友だちとの関係を広げようとする中で、どのような関わりや環境を用意してよいかさらに学び合っていく必要があると感じた。</p>	
重点目標2	自己表現する力を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>○まずは幼児一人一人のどんな気持ちも受け止めていくことで、少しずつ自分の思いを出せるようになった。自信を持ってないことに対してなかなか積極的になれない幼児もいたが、教師と一緒にやってみたり、できないことがいけないことではないという言葉をかけていくことで、「もう一度やってみよう」「できるようになりたい」を思えるようになった。くり返しやってみることの大切さを伝えていきたい。</p> <p>□一人ひとりの自己表現をしっかりと受け止めてきたことで、素直に自分を表現する幼児が増えてきた。大勢の前では自分の考えを表現しにくい姿も見られた。まずは自分なりに表現したことを認め、大勢の前で自分の考えを表現しやすい雰囲気作りに努めていきたい。</p>	
重点目標3	家庭・地域との連携を図る	3
主な方策 成果と課題	<p>○コロナ禍で地域の方と交流する機会がなかなかもてなかったが、地域の方と園児が出会った時に挨拶を交わしたり、職員も話す機会があったり等、これまでの地域の方々と園との交流によって良い関係が築けていることを感じた。</p> <p>□家庭との連携について、各家庭のそれぞれの思いを大切にしながら、共通理解をしていく必要と大切さを感じた。今後も視野を広く持ちながら、家庭との連携を進めていきたい。</p>	

## 2 改善方針

・「自ら選んでする活動」について、職員同士連携をしっかりととりながら進めようといろいろな方策を立ててきた。担任がリーダーシップをとることはもちろん大切なことだが、一人一人の教員がいろいろな案を持ち、自ら考え動くことが大切である。そのためには意見交流の場をはじめとする園内研修会の時間をもっと定期的に確保して、SPDCAサイクルがスムーズに働くようにしていく。

・コロナ禍ではあるが、「新しい生活様式」の中、どこを工夫することで子どもたちの安心で安全な生活を持続していけるのかをしっかりと考えていくことが大切である。

## 自己評価書

四日市市立 高花平幼稚 園

## 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	健康な心と体の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>【基本的生活習慣の確立】 ○手洗い、うがい、マスクの着用など、必要性を幼児に分かりやすく丁寧に伝えてきたことで、意識が高まり、しっかりと身につけていった。一方、生活チェックシートの結果から、今後、早寝・早起きなどの生活リズムなどの力をさらにつけていくことが課題である。</p> <p>【幼児の発達に合った運動遊び】 ○手作りの遊具やアスレチックのコースなど、幼児の興味を生かした環境づくりに努めたことで、保護者アンケートでも「体を動かして遊ぶことが好きになりましたか」の項目で高い評価を得た。また、クラス全体の活動の中で、ねらいを持った遊びを意図的に取り入れたことで、遊びこむ幼児が増えた。</p> <p>【園内外の環境を生かした活動】 ○コロナ禍ではあったが感染症対策をしながら、小学校の校庭で遊んだり、親子遠足に出かけたりするなど、できる範囲で園外活動を行う中で、体力作りに努めることができた。今後、幼児の道路の歩き方など交通安全の意識が身に付くようになっていきたい。</p> <p>【栽培活動やクッキングを通じた食育】 ○園内の畑を生かした計画的な活動、保護者と連携をとった取り組み（親子での収穫、収穫物のレシピの配布など）から、食への興味・関心が高まり、食べる意欲へとつながった。</p>	
重点目標 2	コミュニケーション力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>【あいさつの推進】 ○教師や友だちとあいさつをする心地よさを感じたことで、来園者にも進んで挨拶する姿が見られるようになった。また、様々な生活の場面で、自分で考えてあいさつをする場面が増えていった。一方で、保護者アンケートでは、「自分から日常のあいさつができるようになりましたか」の項目が、他の項目に比べて低い評価であった。今後、家庭と連携を取りながら、取り組む必要がある。</p> <p>【生活や遊びの中での異年齢のかかわり】 ○混合保育を行う中で、4歳児・5歳児が互いに思いを出し合い、安心できるあたたかな関係を築くことができた。各年齢の人数差があり、5歳児が4歳児に対して、世話をしたり、助けたりする取り組みが持ちにくかった。</p> <p>【いろいろな人との交流】 ○サルビア分団との防災教室やこにゅうどうくんとのとこわかダンスなど、様々な分野の方と交流を持ったり、親子で四日市の文化である万古焼体験を通して本物に触れるなど、いろいろな人と出会う機会を持つことができた。 ○近隣の保育園と、安全に配慮しながら交流を持った。いろいろな友だちがいることを知ったり、大勢の人と遊んだりし、普段とは違う経験をすることができた。</p>	

重点目標 3	学びにつながる意欲の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>【意欲をもって、粘り強く取り組む力の育成】</p> <p>○一人一人の課題に対し、職員で話し合い、取り組んでいったことで、目的をもって遊ぶ姿につながった。一人一人の幼児の興味・関心を大切にすることで、夢中になって遊ぶ姿につながった。</p> <p>【友だちと協同、高め合う学びの体験】</p> <p>○子ども同士の話し合いや、葛藤に重点を置き、教師は見守ったり声をかけたりしていった。次第にそれぞれの思いを安心して言葉に表し、互いの思いを尊重しながら遊ぶ姿が見られた。</p> <p>【自然に触れ合う感動体験】</p> <p>○園内の環境を生かしたり、自然物を持ち込んだりし、様々な飼育、栽培、季節を感じる経験を大切に取り組んだ。自然の不思議さに触れる中で、興味・関心を持つようになっていった。また、幼児の姿を伝える中で、保護者も興味をもって、保育に参加する姿もあり、さらに自然への興味・関心が深まった。</p>	

重点目標 4	子育て支援の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>【子育てについて保護者の思いを受け止め、園からも発信する】</p> <p>○保護者と話す機会を大切にし、共に幼児の成長を喜んだり、考えたりすることができた。また、おたよりやホームページで、園の様子を発信していった。</p> <p>○休園中に、家庭で幼稚園を感じたり、親子がコミュニケーションを取りながら楽しめるよう工夫して教材を準備した。また、電話で保護者や幼児と話し、家庭での様子や保護者の思いや不安などを理解できるよう取り組んだ。</p> <p>【地域、保護者との連携を深める】</p> <p>○直接的な交流は難しかったが、絵手紙で地域の方へ感謝の思いを伝えるなど工夫した。</p> <p>○近隣地区への遠足では、事前に子どもの姿や園側のねらいを伝えることで、地域の方から手紙をもらい、地域とのつながりを感じる機会となった。</p> <p>【園開放での子育て支援事業の充実】</p> <p>○未就園児と一緒に遊ぶことは難しかったが、園児が未就園児に遊んでもらおうとお化け屋敷を作ったり、園児の作品を展示したりするなどして、取り組みや活動を紹介することができた。</p>	

## 【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 大矢知幼稚 園

## 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	コミュニケーション力のある子どもを育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で全員がマスクをしていて表情がわかりにくく、言葉を交わすことに対しても消極的になりがちであったが、大人が積極的に声をかけることで、挨拶ができる幼児の姿も増えた。</li> <li>・場面に合わせた言葉づかいや相手に伝わりやすい言い方を幼児たちが意識できるように指導していったことで、生活の中で自然に使えるようになってきた。</li> <li>・自分と相手の思いの違いに気づくことができるように、機会を通して丁寧に教師が関わり、気持ちを代弁して伝えたり、どのように伝えると良いのかを知らせたりしてきた。自分の気持ちを言葉で表現しようとしたり、友だちがどんな気持ちだったのかを考えようとしたりする姿も見られるようになった。</li> <li>・生活や遊びの中で、友だちと話し合ったり、考え合ったりする機会を作っていくようにした。そうすることで、友だちの話にも耳を傾け思いや考えを受けとめながら遊ぼうとしたりする姿が少しずつ見られるようになってきた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に挨拶をする幼児の姿があったが、担任以外の職員や慣れていない人にはなかなか挨拶をしない幼児の姿もあった。</li> <li>・自分の思いを言葉で表現することが苦手な幼児の姿や、自分の思いとは違う考えを受け入れづらい幼児の姿も見られる。言葉で気持ちを表現する機会を意識的に作ったり、友だちに気持ちが通じることの嬉しさを感じられる体験を積み重ねていったりする等、今後も援助の仕方やかかわり方を探っていきたい。</li> </ul>	
重点目標2	体力のある子どもを育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内の限られた空間で、屋外では体全体を使った遊びを積極的に取り入れたり、ホールに巧技台を組んだりして、教師も幼児と共に積極的に体を動かして遊んだりする等、環境を工夫してきた。様々な運動遊びを楽しむ幼児の姿が見られ、遊びの種類も増えた。</li> <li>・教師も積極的に体を動かしながら運動遊びを楽しむことで、幼児が友だちと体を動かして遊ぶ楽しさを十分に感じ、友だち同士で遊びをすすめていこうとする姿も多くなった。</li> <li>・雲梯・鉄棒・跳び箱等に挑戦する活動をクラス活動にも取り入れたことで、体を動かして遊ぶことへの興味・関心が持ちにくい幼児も、挑戦してみようとする姿が見られるようになった。また、苦手なことにも根気強く取り組もうとする幼児の姿が増えた。</li> <li>・マラソンや巧技台を組み立てたサーキットコースの活動等をとおして、寒さにも負けず戸外で体を動かそうとする幼児の姿が増え、体力づくりにもつながった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で制約のある中、園外に出かける機会が少なく、「歩く」ということが十分できなかった。</li> </ul>	

重点目標 3	感性豊かな子どもを育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物や小動物の世話を通して、生き物への興味・関心が広がった。また、自然物を遊びに取り入れて遊ぶ中で、自然の変化等にも気づくことができるようになった。</li> <li>・様々な自然・素材・物に触れて遊ぶ中で、幼児が感じたり思ったりしたことをしっかりと受けとめていくことを大切にしてきた。そうすることで、幼児たちが感じたことや思ったことをのびのびと表現するようになり、感性が豊かになったと感じた。</li> <li>・クラスだより等で、幼児たちが楽しんでいる遊び等について紹介し、様々な活動への意欲が学習や成長につながっていくことを伝えることができた。また、保護者からも家庭での幼児の話聞く機会も増えた。</li> <li>・自分の得意なことや好きなことに十分に取り組むことができる場所や時間を確保していくことで、友だち関係が広まり、つながりも深まった。また、今まで気付かなかった友だちの一面を知り合うことにもつながった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児一人一人興味や関心が異なるので、幼児が感じていることに寄り添って、興味関心を伸ばしていくための言葉がけや援助の工夫をしていきたい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・挨拶については、日々のかかわりの中やクラスだより等を通して、挨拶の大切さを保護者にも啓発していき、大人が率先して挨拶していくことで生活の中で習慣づいていくようにする。
- ・コロナ禍の状況を見ながら、可能な範囲で園外保育を取り入れていき、思い切り走ったり体を動かしたりして遊ぶことができるように更に工夫していきたい。また、幼児の興味・関心に応じた活動内容を考え、教育課程に位置づけていく。
- ・幼児たちにどのような力をつけていきたいのかを職員で話し合い、環境設定や援助方法を工夫し、保育内容を考えていくようにする。
- ・学年の人数に差もあるので、幼児たちの遊びがより深まっていくために、日課や行事等を見直していく必要がある。教育要領の理解を深め、カリキュラム編成の改善を行っていきたい。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 八郷中央幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	遊びや生活に主体的にかかわり、集中して取り組む力を育てる	4
主な方策 成果と課題	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の新しい生活様式の中でも、幼児の興味や関心、意欲や発想を大事にした環境の工夫や援助に力を入れてきた。主体的に遊びや生活に取り組み自分たちで創り上げようとする姿が見られるようになった。</li> <li>・園内の自然とのかかわりがたくさん持てるよう教師自身も意識してきたことで、季節を感じたり、自然の面白さや不思議さを発見したり、生き物を大事にしたりする気持ちが育ってきた。</li> <li>・幼児がイメージを共有しながら継続して遊びに取り組む中で、普段、自分の思いを伝えることが難しい幼児も自分の思いを出しながら遊びに主体的にかかわることができた。</li> <li>・幼児一人ひとりにそれぞれの興味や発達に応じた遊びを共に楽しんできた。その中で楽しかった思いや出来たという思いを丁寧に受け止めたことで、自信がつき、遊びへの意欲につながった。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージを共有しやすい遊びに対しては積極的に参加できるが、自らの発想で遊びを進めていくことが難しい幼児もいる。自ら遊びを作り出していけるよう、一人ひとりの発想を引き出し認めていく援助が必要である。</li> <li>・遊びが停滞してしまうことがあるので、幼児が夢中になれるようなアイデアを教師も一緒に考えあっていく必要がある。</li> </ul>	
重点目標 2	人とかかわる力を養う	3
主な方策 成果と課題	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・混合園であるため、自然と異年齢でかかわり、つながりが深まってきている。</li> <li>・幼児の思いに寄り添い受け止め、自分のしたいことや思いを自分なりの言葉で伝えるための援助をしてきた。徐々に、自分なりの言葉で相手に気持ちを伝えようとする姿、幼児同士言い合ったり考えあったりする姿へと変わってきた。</li> <li>・遊びを通して友だちと関わる中で、相手との思いの違いなどを経験したり、相手の気持ちに気付くように、気持ちがぶつかり合う場面など丁寧に関わった。</li> <li>・コロナ禍で地域の行事に参加する機会や様々な地域の人とのかかわりは減ったが、栽培等を通して同じ方との交流を何度か持つことでつながりの深まりが感じられ、人とかかわる力が養われてきた。</li> <li>・園外保育で地域に出かけることが多くなり、自分達の住んでいる地域のことを知ることができた。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の思いや立場に気づけず、自分の思いを通そうとする姿もみられるので、より丁寧な働きかけが必要である。</li> <li>・コロナ禍において幼児同士触れ合うことができず、異年齢交流の難しさを感じる場面もあった。</li> </ul>	
重点目標 3	健康な心と体づくりを推進する	4
主な方策 成果と課題	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外での遊びが充実するようにタイヤやマットなどの可動式遊具を幼児の目に触れるところへ設置したり、ドッジボールやサッカー、鬼ごっこなどの全身を使って遊ぶ遊びを教師も共に楽しんだりしてきたことで、戸外で遊ぶことが好きな幼児が増えた。</li> <li>・12月からは寒い時期の体づくりとして、毎朝なわとびをした。継続して取り組むことで、初めは苦手感のあった幼児も徐々に自ら取り組むようになってきた。自ら選んで活動する時間にも、自分から縄跳びを持ってきて跳んだり、目標を決めて挑戦したりする姿が見られるようになった。</li> <li>・欠席する幼児も少なく、手洗い、うがいを嫌がる姿もなくなり、外遊び後の手洗い、うがいは特に習慣づいてきた。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活状況調査の結果からも、早起きや朝ウンチなどの生活リズムが定着しづらい現状がある。また、メディアにふれる時間が長い割合が、全市平均に比べて高いことも課題である。</li> <li>・園での体力づくりには力を入れているものの、経験不足から体の動きがぎこちない幼児もいる。</li> <li>・コロナ禍で食育活動がなかなかできず、偏食の多い幼児に対する働きかけが難しかった。</li> </ul>	

## 2 改善方針

### 【重点1】

- ・幅広い分野での経験をしていく中で、興味を持てる物事を増やしていくことで、主体的にかかわりたいと思う力を育てていく。
- ・幼児が主体的に活動していけるように、幼児の実態に応じた援助やかかわりの工夫をしていく。
- ・教師が幼児の興味を丁寧につかみ、環境等を整え、自らがやりたいと感じたことを実現できるよう工夫していく。

### 【重点2】

- ・遊びの中で場面を捉えたり、絵本の読み聞かせなどを通して、自分と相手との思いの違いを知ったり、相手の気持ちを想像したりできるような援助をしている。今後も友だちの気持ちに耳を傾け、自分事として考えられるようなかかわりを続けていくことが必要である。
- ・幼児の気持ちの揺れに敏感に気づき、気持ちにしっかりと寄り添っていけるよう、職員同士が気付いたことをしっかりと伝えあっていく。職員が連携し、指導の方向性を共通認識しながら様々な目で一人ひとりの幼児を丁寧に見ていく。
- ・コロナ禍において地域との交流が減っているので、地域と相談しながら新しい交流の仕方や行事の持ち方を考えあい、幼児が地域の中で大切にされていることや支えてもらっていることを感じられるようにしていく。
- ・計画的に園外保育を教育内容に位置付けて行い、地域とのつながりをより感じられるよう取り組む。
- ・コロナ禍における異年齢及び遊び会との交流の持ち方を工夫していく。

### 【重点3】

- ・保護者の思いを受け止めながら、幼児の健康や小学校以降の生活への影響における生活習慣の大切さを共に考えられるように、面談や便りを通じて伝えていくことを継続していく。
- ・日常の中で意図的に体を動かす経験をできるように工夫する。
- ・コロナ禍における食育活動の工夫をするとともに、食に苦手感のある幼児に対しては保護者と連携しながら食育の推進にあたる。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 桜幼稚 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	夢中になって遊ぶ豊かな体験	4
主な方策 成果と課題	<p>○遊び出したくなるような環境の充実 ○身近な自然物を取り入れた保育の実践 ○めあてをもち、あきらめずに取り組む意欲の育成 ○自分の意見や思いが伝えられるクラスづくり</p> <p>・一人一人の発達や興味・関心に合わせた環境を構成したり、支援したりすることで、遊びへの意欲が高まった。戸外遊びを好み体力が付き、友だちと一緒に目標を持って取り組む姿へとつながった。</p> <p>・園庭でとれたキンカン・パンジーなどの植物を遊びの中に取り入れたり、ダンゴムシやザリガニ・カブト虫などを飼育したりして、関心を持つ姿が増えた。園の教育アンケートの結果では、遊びの種類や生活体験が増えたという項目の「そう思う」の評価が84%と最も高かった。</p> <p>・友だちと楽しく遊ぶためには、きまりを守る必要があることを経験したことで、理解する姿へとつながった。また、個性豊かな幼児の思いを大切にしておかかわることで、周りの幼児とイメージや発想の共有を図ることができた。</p>	
重点目標 2	健康な身体づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>○戸外遊びの充実 ○基本的な生活習慣を身につけ、自分の体について知る機会づくり ○家庭と連携を取り進めた栽培活動 ○手洗い・うがいの励行やマスク着用の役割や扱い方の指導</p> <p>・戸外遊びの充実を図ることで、竹馬、竹ぼっくり、鉄棒、跳び箱、ドッジボールなど様々な体を動かす活動を楽しむ姿が見られた。園の教育アンケートでも、戸外遊びを好むに對し100%の肯定的な評価が得られた。</p> <p>・食育活動においては、園で育てた野菜を持ち帰り、家庭でも味わえる機会を取り入れたことで、保護者とともに食への関心を広げられた。</p> <p>・季節や体力に合わせた取り組み（夏には水分補給、冬には体操・マラソン）を行い、幼児が自分の体を知り、大切にしようとする姿へとつながった。</p> <p>・『手洗いの歌』『ペーパーサート』『手洗い表示』など指導の徹底を図ることで、幼児が自ら意識して取り組むようになった。幼児にとってマスク着用や扱いは難しいと感じたが、一年を通して場面に依じて付け外すことが身につけてきている。</p>	
重点目標 3	人とのかかわり	3
主な方策 成果と課題	<p>○同年齢・異年齢での活動の工夫 ○地域の方やいろいろな人とかかわる機会づくり ○『あいさつ運動』の推進</p> <p>・混合クラスで、異年齢と一緒に過ごす中で、安心して過ごし様々な経験ができた。5歳児は思いやりの気持ちが芽生え自己有能感をもって生活ができ、4歳児は5歳児を頼り憧れの気持ちを抱き、遊ぶ意欲が高まった。</p> <p>・保護者と共に挨拶運動に取り組んだ。名前を呼んで挨拶を交わすことを大切にしたことで、相手の顔を見て挨拶をする姿が増えた。</p> <p>・園外保育や保幼小交流が少ない中、交通安全教室・防災訓練などを通して、人に親しみを感じたり、社会のマナーについて学んだりする機会となった。また、会えない人や思いを伝えたい人へ手紙を送る活動を取り入れ、いろいろなかかわり方を知る機会となった。</p> <p>・自分の思いを伝える姿が育ち、伝え方が分かってきた。相手の話を聴こうとする姿勢については高評価を得た。今後さらに指導方法を工夫していきたい。</p>	

重点目標 4	地域のつながりと子育て支援の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>○園外保育の実施方法の工夫 ○安心・安全な園づくりと子育て支援 ○登降園時の話しやすい雰囲気づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園外保育の計画を見直し、地域の店舗や地域の方の協力で工夫を凝らした活動ができた。地域の方のさつまいも畑に出かけ、自然体験や人との交流がもてた。幼児が感謝の気持ちを持つだけでなく、地域で育つ喜びや見守られていることを感じられる体験となった。</li> <li>・保護者に子どもの様子を細かく伝え、話しやすい雰囲気づくりを大切にしてきた。</li> <li>・チェリークラブ（遊び会）の子どもと保護者が安全・安心して参加できる居場所を求めている。家庭ではできない遊びが体験できるように努めることで、参加の継続につながっている。</li> <li>・地域とのつながりが持ちにくい中でも、状況にあった計画や活動を工夫する必要がある。保幼小中学校の交流が実施できず、子ども同士のかかわりがなく残念だったが、学びの一体化研修が新たにリモートを活用し実施できた。</li> </ul>	

重点目標 5	教師の資質向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○日々の保育の振り返り ○リモート研修への積極的参加 ○専門的知識の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の保育後の振り返りや保育日誌を通して話し合い、職員間の連携に努めた。一人一人の幼児の興味や発達の状況に応じた環境構成を行い、より良い成長につながる実践に取り組んだ。</li> <li>・安全・安心な環境と質の高い教育活動を維持するための工夫を常に話し合った。子どもの命を守るために西消防署の方を講師に招き、全職員で救命救急講習を受け、専門性を磨くことができた。</li> <li>・四同研提案に向けて、一人一人の幼児の姿をとらえ、職員間で共通理解を図る取り組みができた。</li> <li>・様々な経験を持つ職員間であることを強みとして互いを認め合い、持ち味を生かし教師間の資質向上を目指し、研修を深めていく。</li> </ul>	

## 2 改善方針

重点目標 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な動きや体の部位を使って遊ぶためには、園内の巧技台等の運動遊具を計画的に取り入れ活用していく。</li> </ul>
重点目標 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の定着や『早ね・早おき・朝ごはん・朝うんち』の標語を基に、家庭ともに健康な身体作りを目標にした取り組みを引き続き進めていく。</li> <li>・今後も保護者と一緒に考え合い子どもの成長を喜び合う、親しみのある職員、幼稚園を目指し努めていく。</li> </ul>
重点目標 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も人とかかわりが持ちにくい日々が続いていく中、手紙・写真など様々な方法を考え、人とかかわる喜びや温かさなど相手を感じていく体験をしていく。</li> <li>・今後も挨拶運動に取り組み、自ら挨拶をし、地域の中でも挨拶ができるよう取り組みを継続していく。</li> </ul>
重点目標 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェリークラブ（遊び会）の子どもと保護者が安心して参加できる環境設定をし、園児が未就園児とかかわる楽しさが体験できるような工夫をしていく。今後も、安全対策を強化しながら、子育て支援の役割を果たしていく。</li> <li>・社会の状況や幼児の実態に合わせ、近隣園・地域との連携を取りながら、年間・月間計画を立て交流がもてるようにする。</li> <li>・保幼小中の交流は、今までと違った方法を考え、互いの育ちにつなぐ取り組みにしていきたい。</li> </ul>
重点目標 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修や指導主事・園訪問などを通して、保育・教育の研修を深めたり、専門的な研修に参加したりして資質向上を目指していく。</li> </ul>

## 自己評価書

四日市市立 常磐中央幼稚 園

## 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	やってみる ○幼児の興味や関心、意欲につながる環境構成・クラスづくり	3
主な方策 成果と課題	<p>○安心して過ごすことができる教師や友だちとの関係づくりをする</p> <p>○健康で安全な生活を送るための基本的な生活習慣の確立をする</p> <p>○自ら働きかけて生き生きと遊ぶことのできる環境の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼関係を深め安定した園生活を送れるよう一人一人の思いに寄り添ってきた。教師や友だちとの関係が深まるにつれて自ら意欲的、主体的に遊びを楽しみ、やってみようとする気持ちが育った。</li> <li>・コロナ感染予防への環境づくりと手洗いうがい、マスクの着用の定着を図ってきた。今後も幼児自身が必要性を感じ進んで行えるようにしていく必要がある。</li> <li>・給食の時に食べ物の栄養に関心が持てるように取り組むことで、食事の大切さがわかり、苦手な野菜や牛乳を一口は食べてみようとするようになった。</li> <li>・コロナ禍の中、環境構成についても様々な工夫をした。幼児の姿や発達に合わせて環境の再構成を行ってきた。</li> <li>・やってみようという気持ちを見逃さず関わり、過程を大切にしてきた。達成感を教師や友だちと共有し、自信をつけていった。今後も一人一人の気持ちが動く場面を見逃さず、それぞれの個性や発達に合わせた援助を考えかかわっていく。</li> <li>・逆上がり補助台を設置すると、自ら鉄棒に挑戦する幼児の姿がみられた。今後もどの時期にどんな力をつけたいのかを話し合い、意図的に運動遊びの環境を構成し年間を通して計画的に取り組んでいく。</li> </ul>	

重点目標2	つながる ○豊かな人間性および人とかかわる力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○「聴く」「話す」「伝える」力の育成を図る</p> <p>○挨拶の定着に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスク着用となり表情や声が分かりづらいということから、友だち同士の関係づくりを意識してまずは教師と関係を作ることから少しずつ広げていくようにした。</li> <li>・一人一人の幼児としっかり向き合い耳を傾けてきた。受け止めてもらえる安心感や喜びから自分の思いを表現したり、伝えようとしたりする姿になってきた。</li> <li>・「伝える」「話す」と発信する姿はしっかりと見られるようになってきた。一方で相手の話を「聴く」という気持ちや姿勢が自ら持てるような取り組みがさらに必要であると感じている。また、クラス全体の場においてはわかりやすい説明を意識するとともに知りたいという思いが持てるようにしていく。</li> <li>・相手に思いがあることに気付けるよう、表情に気付かせたり、相手の思いを代弁したりするなど丁寧に関わった。少しずつ相手の気持ちに気づき、受け止め考え合う姿がみられるようになった。また、互いに思いを出し合う中で、自分の気持ちに折り合いをつけられるようになった。</li> <li>・幼児が進んで挨拶を交わしたりする姿がみられた。一方で、保護者アンケートで自分からはあまり日常の挨拶をしないという意見があった。今後も保護者の協力も得る中で、様々な場面に応じた挨拶ができるよう、教師がモデルになり、挨拶の大切さや心地よさを感じられるようにしていく。</li> </ul>	

重点目標 3	いっしょに ○保護者・地域（保幼小中）・専門機関との連携および職員の資質向上	3
主な方策 成果と課題	○早寝早起き朝ごはんの定着を図る ○保小中や地域との交流を進める ○保護者と共に子どもの育ちを考え合う ○教師間の連携やコミュニケーションを大切にする ・早寝早起き朝ごはんについて長期休業中にチェックシートを配布するなど啓発を続けてきた。今後も丁寧な家庭と連携をして取り組んでいきたい。 ・今年度はコロナ感染症予防のため、保小中、地域との交流が持てなかった。今後交流のねらいや目的を再度見直し、方法等工夫し取り組みを進めていきたい。 ・登降園の際など保護者一人一人に声をかけ連携してきた。また、園の様子をおたよりやホームページなどで情報の発信に努めてきた。今後も保護者の思いや考えを受け止め一緒に考えていきたい。また、地域と情報を共有し地域の子どもの成長をとともに考えていきたい。 ・保育後に幼児の姿やかかわり方についての話し合いを行い、自分の保育を見直すことができ援助の仕方を改善していくことができた。またオンラインでの研修など様々な方法を活用し、工夫して研修を深めていく大切さを感じた。今後も計画をたて、保育を振り返る時間を確保し、一人一人の発達や手立てについて検討し、よりよい保育となるように取り組んでいく。	

## 2 改善方針

・手洗いうがいやあいさつなどが自分からできるように、必要性や気持ちのよさを幼児自身が感じ取り組めるように、引き続き家庭と共に取り組みを進めていく。

・話したい、聞きたい、伝えあいたい環境づくりを教師が意識し、話を聴く態度が身につけられるように根気よくかかわっていく。また、見たこと感じたことなどを自分なりに言葉で伝えようとする姿を大切に捉え、保育をすすめる。

・園内研修を計画的に行い、それぞれの職員の思いや保育のねらいを共有するとともに、子どもの思いや理解に努め保育内容の質の向上を図る。

・今後も家庭へおたよりやホームページなどで情報を発信するとともに、保護者の思いを丁寧に聞き取り、ともに成長を考え合えるようにしていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 塩浜こども 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	あそびに意欲的に取り組む中で、気づいたり考えたりしながら、共に生きる力の基礎の育成をはかる。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもたちが好きな遊びを見つけ、自分から遊び始められるように、紙や箱・ペンなど様々な素材が使えるよう、こどもたちの様子に合わせ環境を整えた。その結果、子どもたちは友だちとアイデアを出し合い、ごっこ遊びに発展していった。</li><li>・クラスでルールのある遊びを継続して取り組んだ。子どもたちは、遊びの楽しさが感じられるようになると、自分たちで誘い合い、遊びを進めたり、トラブルを解決しようとして考えや思いを出し合えたりすることができた。</li><li>・遊びの中で、困ったりトラブルがあったりしてもすぐに保育者が声をかけるのではなく見守り、子どもたちが自分たちで考えて伝え合えるように心掛けた。</li></ul> ○遊びの中で、子どもたちの様々な気づきを取り上げ、子どもたち自身が考えるように働きかけていく必要がある。	
重点目標 2	生活リズムの向上の取り組みとして、食育と基本的生活習慣の確立を重点的に取り組む	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもたちがグループで野菜を育て、その結果少しずつだが、食べようとする姿も見られるようになった。</li><li>・食育ボードを利用し、毎日の給食に入っている食材を色分けして掲示した。食材や栄養への興味や関心が広がり、バランスの良い食事や食の大切さを知らせることができた。</li></ul> ○9時までの登園を呼びかけ、9時から園全体で取り組む活動を入れてきた。引き続き子どもたちにとって生活リズムの確立の大切さを、保護者に知らせていく必要がある。	
重点目標 3	保護者・地域にこども園についての情報発信をより具体的におこなう。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・保護者と子どもの姿や付けたい力について話げできた。取り組みの中で子どもたちの変わってきた姿を保護者と共有し、より良い援助につなげた。</li></ul> ・園での取り組みをホームページや毎日の連絡ボードに写真入りで掲示し、視覚的にわかりやすく伝えられた。	
○こどもが楽しんでいる遊びを一緒に楽しめるように保育参加を設けた。どの様に関わると良いか声をかけたり、伝えたりしていく必要がある。		

## 2 改善方針

- ・子ども一人一人に対し、園全体で共通理解 認識ができるように話し合い取り組んでいく。
- ・発達に合わせたサーキット遊びや固定遊具などで体力作りができるように環境を整える。
- ・「早寝 早起き 朝ごはん」の大切さを幼児にも知らせ、家庭と連携し生活リズムの確立につなげていく。
- ・子ども自らが「やってみたい」「続きはどうしよう」と考えられるような環境設定を工夫し様々な素材を提供していくことも大切であると思われる。また、子ども自身ができたという自分の成長に気付けるような工夫も大切である。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 笹川中央幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	生活習慣を身につけ、健康な体をつくる	4
主な方策 成果と課題	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくりについては、サーキットやさくらんぼリズムに取り組むだけでなく、日常の様々な遊びを通して、楽しみながら体を動かすことで、体づくりにつながった。</li> <li>・園外保育に出かけ、園では経験できない土手滑りや広い芝生の上でキャタピラ遊び、木登りやシーソーなどでのびのびと遊び、体の使い方やバランスのとり方などが身についてきた。</li> <li>・体の様々な動きやバランス感覚を身につけることで、戸外遊びがますます活発になってきた。経験するきっかけを作り、目標を持って取り組んできたことが自信につながった。</li> <li>・食育については、クッキングなどの活動には制限があり、実施できなかったが、日々の取り組みの中で、友達の姿に刺激されたり、教師が声をかけたりすることで、食べたことがないものにもチャレンジしようとする姿が出てきた。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくりの年間計画を立てたが、休園や活動の制限があり、計画通り取り組むことが難しかった。</li> <li>・生活習慣では、早寝早起き朝ごはんなど、文化の違いもあり生活リズムの定着が難しい。</li> </ul>	
重点目標 2	互いを認め合い、温かい人間関係を育てる	4
主な方策 成果と課題	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入園当初は様々な国の友だちの姿や言葉の違いに戸惑う姿が見られたが、国際色豊かな環境を生かしながら、認め合えるよう取り組みを進めてきたことで、遊びや生活の中で楽しさを共感し、自然なかかわりが生まれ、温かい関係を築いている。</li> <li>・異年齢交流では、1学期から日常の遊びの中でかかわりあうことも多く、それぞれにとって良い刺激となっていた。さらに、5歳児が企画した「お楽しみ会」の取り組みを通して、大きな成長が見られた。</li> <li>・初めての活動や自信のない活動に対して消極的な幼児もいたが、興味を持てるような場を設定することで、友だちが取り組む姿を見て、自分もやってみようとする気持ちがわいてきた。その姿を丁寧に認めてきたことで、自信がつき、新たなことにも挑戦してみようとする気持ちがついた。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の違いや様々な家庭での生活スタイルの違いを受け入れる姿もあるが、言葉が通じる幼児同士の関わりが多い。相手のことを知りたい、話したいと思う気持ちはあるが、十分に理解し合えないまま終わることも少なくない。</li> </ul>	
重点目標 3	豊かな生活体験を通し、聞く・話す・伝える力をつける	3
主な方策 成果と課題	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響で活動が制限されることも多かったが、日常の保育に加え、栽培活動、行事、園外保育など心動かされる豊かな体験の中で、伝える喜びを感じることができた。</li> <li>・絵本の読み聞かせの時間を大切にし、日々絵本を選択し、取り組んできたことで、絵本に親しみを持ち、「読んでほしい」という姿がたくさん見られるようになった。また、言葉遊びを多く取り入れ、生活に必要な言葉をたくさん話せるようになってきた。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策の面で、絵本の貸し出しができなかった。今後、貸し出しにおいて工夫できることを検討していきたい。</li> <li>・職員が子どもと話すときに伝わりやすさを重視するあまり、単語で伝えることがあった。</li> </ul>	

重点目標 4	支え合い協力して取り組む保護者・地域・教職員	3
主な方策 成果と課題	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な職種、勤務形態の職員がいる中で連携をとることが難しいが、勤務時間を調整したり、短時間で有効に情報共有するなど、工夫しながら連携を図ることができた。そのことが幼児へのよりよい支援・指導につながり、幼児の成長につながっている。</li> <li>・今年度は保護者同士がつながる場を設けることがあまりできなかったが、園と保護者一人一人がつながることで、園全体が一つにつながり、協力し合う体制ができていると感じる。</li> </ul> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との連携において、言葉の面でコミュニケーションが難しく、適応指導員を介して幼児の姿を話すようにしているが、会う機会が少ない保護者も多く、話す時間を十分に取れない状況がある。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムの定着においては、おたより等で発信していくとともに、家庭と連携を密にし、個別に働きかけていく。</li> <li>・保護者、地域との連携については、新型コロナウイルス感染防止に配慮し、新たな方法を模索しながら、積極的に取り組んでいく。</li> <li>・職員の言葉かけにおいて、正しい日本語、わかりやすい日本語を意識していく。単語を並べがちであるが、助詞を使い、簡単な文章を言葉にしていく。</li> <li>・感染防止のため、絵本の貸し出しが実施できなかったため、今後も園内での読み聞かせを充実させていく。さらに、保護者への絵本の紹介や、家庭で絵本に親しめるようにおたより等で啓発していく。</li> <li>・感染防止のため、マスクで生活をする事になり、口元の表情や言葉が読み取れないので、話を聞くときは顔や目を意識して見て、相手の気持ちが感じとれるようにしていく。</li> <li>・今年度は様々な活動が制限されたが、今後は感染防止策を講じながら、子どもたちの成長のために遊びや行事の内容を工夫して計画していく。</li> </ul>
---

## 【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 三重西幼稚 園

## 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	健康な心と体づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>○教師や保護者が挨拶をすることで、自分からすすんで友だちや教師に挨拶をするようになった。朝の登園時には友だちを見つけると嬉しそうに「おはよう」と子ども同士で声を掛け合う姿が見られた。</p> <p>○教師も一緒に身体を動かして遊んだり、様々な環境を設定したりすることで、戸外で遊ぶことが好きになった。保護者アンケートでも「戸外で遊ぶことが好きになりましたか」「体力がついたと思いますか」「体を動かして遊ぶことが好きになりましたか」という項目でA B評価が100%であった。今後も幼児にとって魅力的な遊びができるように、環境構成やかかわりを工夫していきたい。</p> <p>○計画的に園外保育へ出かけ、地域を知り、歩く経験ができた。引き続き、親子での徒歩通園を推奨し、歩くことの大切さを伝えていく。また、地域に愛着が持てるよう公園マップの活用もしていきたい。</p> <p>○今年度は園でのクッキングは難しかったが、収穫した野菜を家に持ち帰り、家庭で調理して食べてもらうことで、苦手なものでも食べてみようとする幼児の姿につながった。</p>	
重点目標 2	互いを知ってつながるコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○教師が幼児の話をじっくりと聞くようにしてきたことで、話すことを楽しみ、自分から教師や友だちに気持ちを伝えるようになった。何かあると、一緒に友だちのことを心配したり、考えたりする姿も見られるようになってきている。今後も友だちと思いがぶつかる場面を大切に、必要な手立てやかかわりをしていきたい。</p> <p>○自分の思いを伝えることに加え、受け止めてもらえる嬉しさを感じ、人の話を聞く力につなげていきたい。教師が分かりやすく伝えることなどを意識して興味を持てるようにしていきたい。</p> <p>○4歳児・5歳児が遊びや生活を共にすることで、仲間意識が深まり、互いを認め合うなど幼児同士の気持ちのつながりが見られた。今後も各学年の育ちもおさえながら、ときには遊びの投げかけやきっかけ作りをするなど幼児同士のかかわりを深めていきたい。</p>	
重点目標 3	家庭や地域・小学校・中学校と連携した園づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>○コロナ禍でありながらも、十分な対策をとった上で地域の方と交流することで、園だけではなかなか経験することができない大切な機会をもつことができた。</p> <p>○保護者アンケートで「教育内容に満足している」のA評価が100%であった。ホワイトボードや掲示板を活用して園での様子を発信することで、保護者と話すきっかけにもなり、保護者の思いを聞きながら共に子どもの成長を考え合うことができた。</p> <p>○例年のような小中との交流の機会は持てなかったが、小学校での風揚げや合同避難訓練、校長先生による絵本の読み聞かせ・就学に向けての話など小学校に触れる機会になった。</p> <p>○未就園児の遊び会を継続的に持つことができた。知り合いを誘って遊びに来てもらうなど、園に来ることを楽しみにしてもらっている。</p>	

## 2 改善方針

①今後も保護者へ徒歩通園の大切さを継続的に伝えながら、コロナ対策をした上で計画的に園外へ出かけ、歩く経験、自然に触れる機会を増やしていきたい。また、地域の公園マップを作成し、自分の住んでいる地域を知り、親しみを持てるようにしていく。

②一人一人の幼児理解に努め、教師や友だちの話を聞く経験を増やしていきたい。混合クラスとしての4、5歳児のかかわりを大切にしながら、各学年の時期や発達に見合った遊び、つけたい力をおさえていきたい。

③保護者・地域と連携をとり、引き続き協働できる活動や交流を模索し、計画的にすすめていく。今後も掲示板・おたよりなどを活用しながら、園での様子を発信し、保護者と話をする中で、保育に生かしていきたい。

## 自己評価書

四日市市立 楠北幼稚 園

## 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	基本的な生活習慣の自立（自立）	3
主な方策 成果と課題	<p>○教師から積極的に挨拶し、その気持ちよさを伝えたり、挨拶に親しめるような絵本や言葉遊びなど保育に取り入れたりしてきた。その結果、4歳児は挨拶を返せるようになり、5歳児は幼児同士で挨拶を交わしあえるようになった。</p> <p>○自分のことは自分でできるよう、一人一人に応じた援助を大切にしてきた。次第に自分でできることが増え、幼児自身が自分の変化に喜び、更に意欲的にしようとする姿が増えた。今後も家庭との連携を密にとり、取り組みを継続する。</p>	
重点目標 2	健康な体づくり（自立）	3
主な方策 成果と課題	<p>○友だちの姿に刺激を受け、十分に体を動かして遊ぶことでお腹がすき、苦手な食べ物を自ら食べようとする姿が増えた。今後も絵本や紙芝居を通して食物の栄養により興味関心が持てるよう取り組みを継続する。</p> <p>○園内の畑や、個人鉢での栽培活動を通して、食への興味が増した。食育推進では、今後も食育だよりの発行やホワイトボードの掲示で季節の野菜やクッキングの方法を家庭へ知らせ、食についての情報発信ををする。</p> <p>○園庭の環境設定の工夫や園外保育の山道、あぜ道を歩く経験により、しなやかな体の動きやバランス感覚が身についた。保護者アンケートからは「体力がついた」「体を動かして遊ぶことが好きになった」との評価が得られた。</p>	
重点目標 3	元気に遊ぶ（学ぶ）力（意欲）	3
主な方策 成果と課題	<p>○4歳児は教師が幼児の思いに寄り添い、遊びの楽しさを共有したことで安心して動き出せるようになった。5歳児は幼児同士が互いのその子らしさを受け入れ励まし合えたことが、挑戦する意欲へとつながった。</p> <p>○幼児が今何に興味を持っているのかを園内で話し合い、教材準備や環境設定をしたことで、幼児自ら遊びを見つけ出す姿が増えた。今後も、幼児が心を動かすしかけや環境構成をつくっていく。</p> <p>○運動会や発表会では、幼児と共に考えるようにした。願いが実現する喜びや友だちとやり遂げた充実感を味わったことで、主体的に園生活を送ろうとする姿に変化した。</p>	
重点目標 4	豊かな心の育成・思いやりの心の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○4歳児は相手に伝えたい思いを教師が読み取り代弁し、一緒に伝えてきた。5歳児は思いを伝え合う場面を大切にし、伝わる心地良さを感じてきたことで、自分の言葉で思いを伝えるようになった。</p> <p>○教師は幼児の思いを丁寧に聴き、周りの幼児が友だちの心の動きに気づけるよう声を掛けてきた。その結果、友だちの様子に気づいて声をかけ合ったり、自分たちで問題を解決しようとする姿につながった。</p> <p>○様々な気持ちを伝え合い、共感し合ったことが、自分の思いを伝え、相手の話を聞こうとする態度につながった。</p>	

重点目標 5	地域・保護者との連携と協働	3
主な方策 成果と課題	<p>○保護者と積極的に会話をする中で、共に子どもの成長を喜び、子育ての悩みを共有してきたことが、園への信頼につながった。</p> <p>○絵本だよりに写真を掲載したことで保護者の絵本への興味が高まり、週末の貸出絵本を楽しみにする親子が増えた。</p> <p>○保育園とは、地域の協力のもと共通の畑でさつま芋栽培をし、それを元に共同製作に取り組んだ。小学校とは写真や手紙で交流した。幼児は親しみの気持ちを持ち、職員同士は子どもの姿や課題を共有することができた。</p> <p>○地域の方の名前を知らせ、一緒に活動してきたことで親近感がわき、幼児自ら名前呼びかける姿が見られた。今後も、お互いに思いを伝え合い、幼児の体験がより豊かになるよう連携を進めていく。</p>	

## 2 改善方針

### 重点①

○「挨拶の習慣」では、教師から積極的に挨拶をし続け、楽しい遊びの中で挨拶する経験を積み重ねる。また生活習慣チェックシートを活用し、幼児が自ら挨拶できた満足感や達成感を感じられるようにする。

○「生活習慣」では、今後も一人一人に応じた援助を大切に、幼児自身が『自分のことは自分でしよう』と思えるかかわりを保護者と共に考え進める。

### 重点②

○幼児の姿や発達をしっかりと捉え、柔軟に新しい遊具も取り入れて教材研究を行う。保育参加時に、親子で体を動かす時間を取り入れ工夫する。

### 重点③

○講師を招いての研修や園内での教材研究、クラス間での研究保育など、環境設定や教師の援助の在り方の研修を充実させる。

### 重点④

○「話を聞く態度の育成」では、教師の伝え方を工夫し、幼児が話を聞く心地よさを感じられるようにする。話をする人の顔を見る等、聞き方を知らせたり、話を聞く姿勢を保てるような様々な体の動きから体幹を身に着け、最後まで落ち着いて聞けるようにする。

### 重点⑤

○来年度、楠こども園で更に保護者、小、中、地域との連携を深めながら、地域と共に歩む開かれた園づくりを目指していきたい。